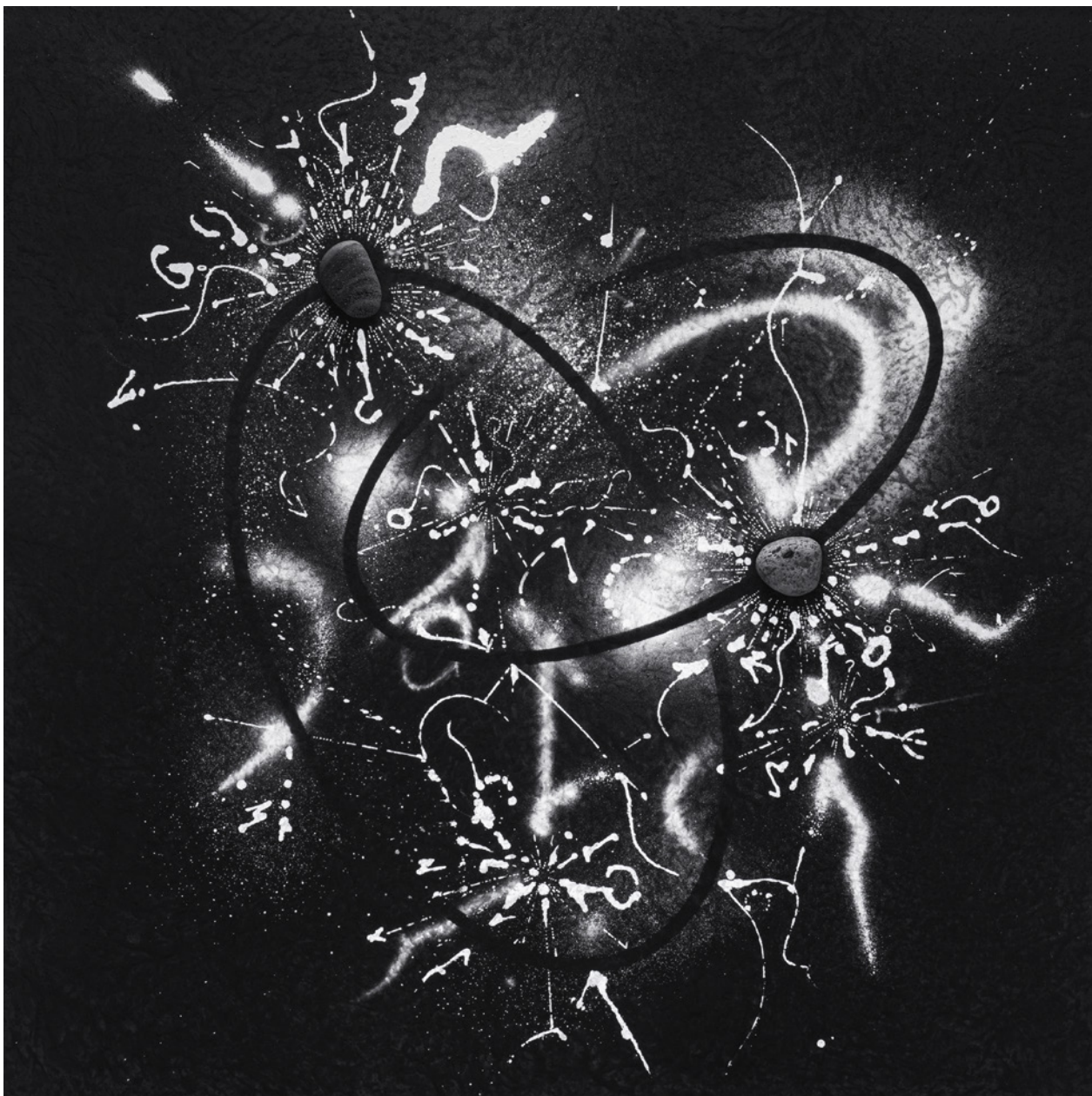


Hiraku Suzuki: **Excavation Today** 鈴木ヒラク 今日の発掘



隕石が書く (S/M) #2 | 2023 溶岩 (ボルト止め)、シルバーインク、土、アクリル・キャンバス h117 x w117 x d9cm  
作家蔵 Photo by Chen Hsin Wei © Hiraku Suzuki Studio

2023.9.16 sat. – 12.19 tue.

Closed on Mondays (except Sept. 18, Oct.9, Nov. 27, Dec. 11, 18),  
Sept. 19, Oct. 10, Nov. 13-23, Dec. 4-8, 14

Open Hours: 9:30-17:00 (tickets available until 16:30)

Venue: The Museum of Modern Art, Gunma, Gallery 4, 5

Organized by The Museum of Modern Art, Gunma,  
Sponsored by JINS HOLDINGS Inc., agnès b. Japan Inc.,  
YAMATO CORPORATION

Cooperated by SHIROIYA HOTEL, rin art association



群馬県立近代美術館  
THE MUSEUM OF MODERN ART, GUNMA

Hiraku Suzuki: **Excavation Today**鈴木ヒラク  
今日の発掘

## 企画概要

ドローイングの概念を拡張するアーティスト鈴木ヒラク、過去最大規模の個展  
最新作によるインスタレーション、壁画や近年の代表作も

鈴木ヒラクにとっての線は、言葉と絵、こちら側とあちら側、自己と他者をつなぎ、相互浸透を促すメディアです。線にかく行為＝ドローイングは、森羅万象にあまねく存在する（見えない）線の発掘であり、さらに線をトンネルのような中空の通路、あるいはチューブ（管）にとらえれば、人間と自然、主体と客体といった二項対立を越え、世界あるいは宇宙と一体化するための手段となります。この展覧会は、最新シリーズ〈隕石が書く〉（2023年）40点による大規模なインスタレーションと、近作である〈Constellation〉（2018-21年）、〈Interexcavation〉（2019年）各シリーズからの作品、そして現地制作される壁画などを組み合わせた、鈴木ヒラクにとって過去最大規模の個展となります。

〈隕石が書く〉 匿名の石が孕む宇宙的な記憶と呼応し、  
光の軌跡など様々な記号をとらえる「発掘」行為としてのドローイング  
磯崎新の建築空間と響き合う、描くこと／書くことの起源と未来を探求するインスタレーション

フランスの思想家ロジェ・カイヨワの著書『石が書く』（1970年）を参照したタイトルが示すとおり、〈隕石が書く〉は、宇宙空間を移動する石が反射する光の軌道など様々な記号を集積し、作家が身近な環境で拾った匿名の石が孕む膨大な情報と呼応しながら、人類史を遙かに超えた時間軸において生成され続ける線を新しい言語として画面に刻み込む試みです。展示会場は、昨年未惜しくもこの世を去った建築家、磯崎新（1931-2022）設計による当館の現代美術棟（1997年竣工）です。磯崎は当館の建物を、作品が通り抜けていく空洞として構想しました。それと響き合うかのように、鈴木は展示室から展示室へ、描くこと／書くことの起源と未来を求めて、人類最古の壁画が残された洞窟から人知を超えて生成と消滅が繰り返される宇宙空間へと、線を連ねていきます。過去と現在が交差する瞬間＝発掘として日々線を見出し、描く／書く行為を積み重ねる鈴木ヒラクは、ドローイングの概念を拡張し、現代における表現の可能性を更新し続けています。その現在地としてのインスタレーションを、どうぞ体感してください。

初日に鈴木ヒラクによるライブドローイング＋トーク、会期中には鷺田めるる氏（十和田市現代美術館館長）とのトーク、FUJI||||||| TA氏（サウンドアーティスト）とのライブなどを開催  
本展にあわせて初のエッセイ『ドローイング 点・線・面からチューブへ』（左右社）が出版されるほか、会期中に本展覧会のカタログも刊行予定

## 鈴木ヒラク Hiraku Suzuki

1978年宮城県生まれ、神奈川県育ち。

2001年武蔵野美術大学造形学部映像学科卒業。08年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了後、シドニー、サンパウロ、ロンドン、ニューヨーク、ベルリンなど各地で滞在制作。

描くと書くの間を主題に、平面・彫刻・映像・パフォーマンス等によりドローイングの概念を拡張する制作活動を展開している。

09年「愛についての100の物語」（金沢21世紀美術館）、

10年「六本木クロッシング2010展：芸術は可能か？」（森美術館）出品。

13年「日産アートアワード2013」ファイナリスト選出。

17年「ヒックリコガツリコことばの生まれる場所」（アーツ前橋）出品。

同年「FID Prize」（パリ）グランプリ受賞。

19年「MOT アニュアル2019 Echo after Echo：仮の声、新しい影」（東京都現代美術館）出品。

16年より国際的なドローイング研究プラットフォーム「Drawing Tube」を主宰。

音楽家や詩人らとのコラボレーションやパブリックアートも多数手掛ける。

作品集に『GENGA』（2010年）、『SILVER MARKER』（2020年）など。

作品は金沢21世紀美術館、東京都現代美術館、アーツ前橋のほか、

アニエスベー・コレクション（フランス）やロンドン芸術大学（イギリス）などに収蔵されている。

現在、東京藝術大学大学院美術研究科グローバルアートプラクティス准教授。

本展にあわせて初のエッセイ『ドローイング 点・線・面からチューブへ』（左右社）が刊行される。

<http://hirakusuzuki.com/>



Hiraku Suzuki: **Excavation Today**鈴木  
ヒラク  
今日の  
発掘

## 開催概要

展覧会名 鈴木ヒラク 今日の発掘  
Hiraku Suzuki: Excavation Today

会期 2023年9月16日(土)～12月19日(火)  
休館日 毎週月曜日(ただし9/18、10/9、11/27、12/11、12/18は開館)  
9/19(火)、10/10(火)、11/13(月)～23(木)、12/4(月)～8(金)、12/14(木)

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

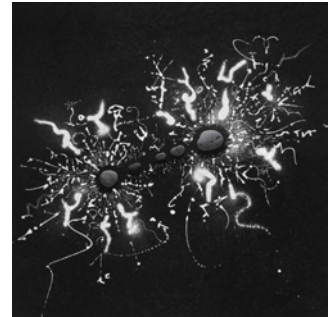
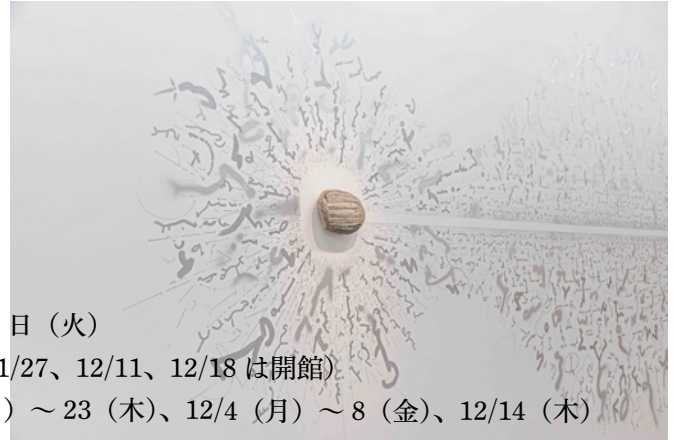
会場 群馬県立近代美術館 展示室4、5

主催 群馬県立近代美術館

協賛 株式会社ジズホールディングス、アニエスベージャパン株式会社、株式会社ヤマト

協力 白井屋ホテル、rin art association

観覧料 一般300(240)円、大高生150(120)円  
\*( )内は20名以上の団体割引料金  
\*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名、  
群馬県民の日(10/28)に観覧される方は無料



## 関連イベント

ライブドローイング+トーク

**Live Drawing + Talk**

9.16 (Sat.) 15:30～16:00 展示室内 [要観覧券・申込不要]



クロストーク 鷲田めるろ(十和田市現代美術館館長/東京藝術大学准教授)×鈴木ヒラク

**Cross Talk: Meruro Washida x Hiraku Suzuki**

11.4 (Sat.) 14:00～15:30 講堂 定員100名(先着順) [聴講無料・申込不要]

主催:群馬県立近代美術館友の会

ライブドローイング ゲスト:FUJI|||||||TA(サウンドアーティスト)

**Live Drawing with FUJI|||||||TA (Sound Artist)**

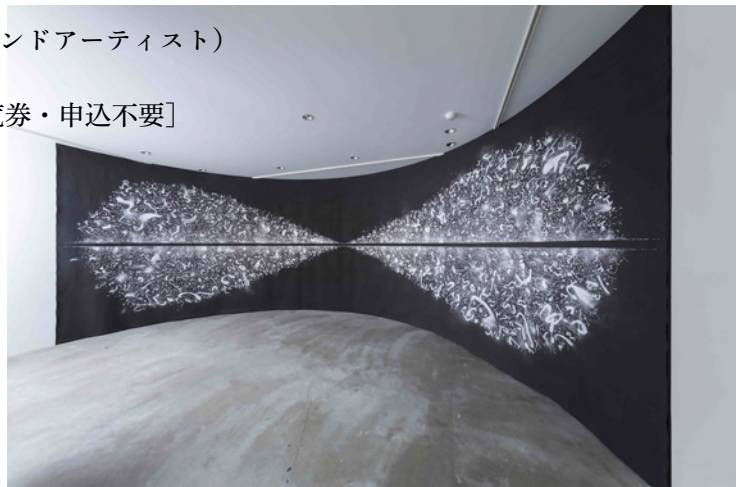
12.2 (Sat.) 15:30～16:30 展示室内 [要観覧券・申込不要]

学芸員による作品解説会

**Gallery Talk by Curator**

10.8 (Sun.)、11.8 (Wed.) 各日14:00～15:00

展示室内 [要観覧券・申込不要]



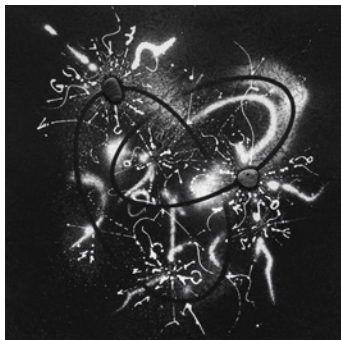
Hiraku Suzuki: **Excavation Today**

鈴木ヒラク  
今日の発掘

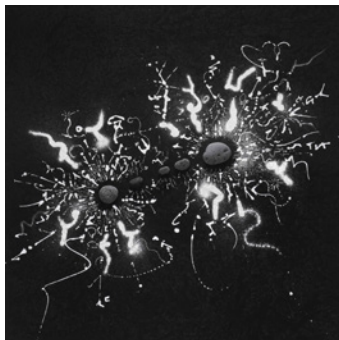
広報用画像

\*キャプション・クレジットは広報用画像申込書でご確認ください。

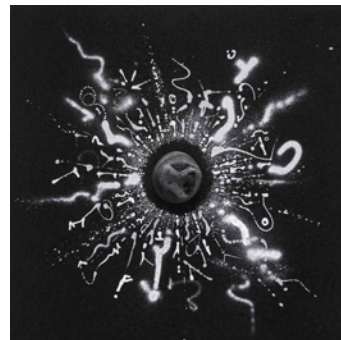
1.



2.



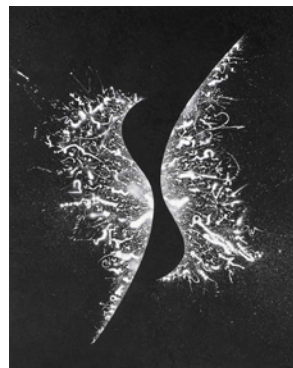
3.



4.



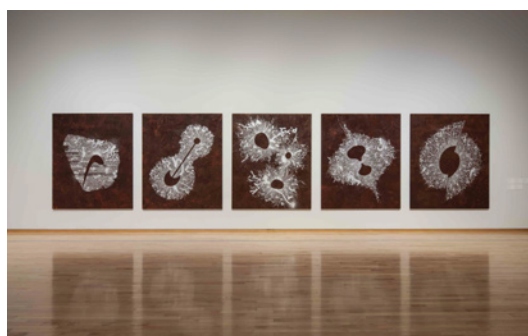
5.



6.



7.



8.



9.



広報用画像・読者プレゼント用招待券申込書

FAX : 027-346-4064 E-MAIL : kenjyo-kumiko@pref.gunma.lg.jp

広報用画像として9点および読者プレゼント用招待券をご用意しております。掲載ご希望の方は本申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。なお、写真の使用に際し、**キャプションは、作家名、作品名、制作年、所蔵、コピーライト等を必ずご表記ください。作品のトリミング、編集、文字載せはお控えください。**本展記事をご紹介いただく場合には、情報確認のため校正原稿をお送りいただき、掲載後には、掲載誌（紙）、公開URL等を広報担当へお送りください。

貴社名：	ご担当者名：
貴媒体名：	E-mail：
TEL：	FAX：
掲載予定日：	読者招待券： <input type="checkbox"/> 希望する（5組10枚） <input type="checkbox"/> 希望しない
招待券送付先：	

ご希望の画像番号に印をお付けください。

- 1 《隕石が書く(S/M)#2》2023 溶岩（ボルト止め）、シルバーインク、土、アクリル・キャンバス h117 x w117 x d9cm 作家蔵 Photo by Chen Hsin Wei
- 2 《隕石が書く(S/M)#3》2023 溶岩（ボルト止め）、シルバーインク、土、アクリル・キャンバス h117 x w117 x d9cm 作家蔵 Photo by Chen Hsin Wei
- 3 《隕石が書く(S/S)#12》2023 溶岩（ボルト止め）、シルバーインク、土、アクリル・キャンバス h73 x w73 x d9cm 作家蔵 Photo by Chen Hsin Wei
- 4 《Constellation #23》2018 シルバーインク、土、アクリル、墨汁・キャンバス h264 x w862cm 個人蔵 Photo by Ooki Jingu
- 5 《Constellation #54》2021 シルバーインク、土、アクリル、墨汁・キャンバス h227.3×w181.8×d4cm 作家蔵
- 6 《Interexcavation #13》2019 シルバーインク、土、アクリル、顔料・キャンバス h194 x w162 x d3cm 個人蔵（群馬県立近代美術館寄託）
- 7 （右から）《Interexcavation #01,#02,#06,#05,#21》2019 シルバーインク、土、アクリル、顔料・キャンバス 各 h194 x w162 x d3cm 東京都現代美術館蔵 「MOTコレクション 光みつる庭／途切れないささやき」(東京都現代美術館) 展示風景 2022 Photo by Masaru Yanagiba
- 8 《Excavation of a Tube》2019 壁に石、シルバーインク La Panacée（モンペリエ、フランス）での展示風景 Photo by Nadim Zeraïa（参考図版）
- 9 鈴木ヒラク（東京藝術大学でのドローイングワークショップにて）Photo by Mariana Kameta

\*全て共通 © Hiraku Suzuki Studio

報道関係のお問い合わせ

群馬県立近代美術館 370-1293 群馬県高崎市綿貫町 992-1  
広報担当 見城 E-MAIL : kenjyo-kumiko@pref.gunma.lg.jp  
TEL : 027-346-5556 / 5560 FAX : 027-346-4064